



▼黒羽果樹園
黒羽唯之さん

手取り足取りで技術を習得

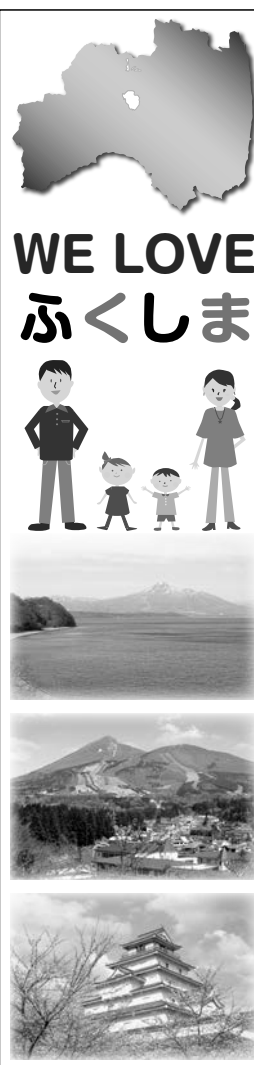
黒羽さんは、東日本大震災の前年の2010年3月に東北電力を退社。もともと両親がりんご・桃、そして米の生産農家であったため、「父や母がまだ元気なうちに技術を習得しておきたい」との思いで、家業を継ぐことを決心したそうです。

ただ、生産に関してはまったくの素人。「子供の頃から両親の仕事を手伝ってはいましたが、当初は毎日、父の作業にびったりくっついて、手取り足取り教えてもらいました」と黒羽さん。

果樹の栽培で特に難しいのが「剪定」。剪定は果物の収量や品質に大きく関わる重要な作業で、りんごも1月～2月の冬に行う剪定の仕方次第で秋の収穫状況が決まってしまうそうです。いわば失敗が許されない作業。父親の指導や農協の講習会で技術を学んだとはいえ、切らなくてもいい枝を切り落としてしまうことも…。

果樹農家の元気を支えた「熱い絆」。

「果物王国」として知られる福島県。福島盆地を中心に様々な果樹の栽培が盛んに行われています。今回ご紹介する「黒羽果樹園」もその一つ。ここでは、りんごや桃、お米の生産を手掛けています。実は、この果樹園を営む黒羽唯之さんは東北電力女川原子力発電所に10年間勤務した後に、家業の果樹園を継いだという経歴の持ち主。東京電力福島第二原子力発電所の事故による風評被害で売り上げが半分にまで落ち込んでしまいましたが、現在は震災前の状況に戻りつつあるとのこと。そこには、持ち前の放射線に対する知識を活かした適切な除染作業、そして、かつての同僚たちとの熱い絆がありました。





▲たわわに実った稲を刈り取る黒羽さん。全袋検査で安全を確認し、市場に出荷しています



▲7月～9月(年により変動)は「桃」を出荷しています

▼採りたてのりんごをいただきました



▲りんごに日光による葉の影が付くのを防ぐため、りんごの周りの葉を取り除く作業。りんごの栄養は葉で作られるため、必要最小限にとどめ、すべて手作業で一つ一つ丁寧に作業しています。

知識を活かして適切に除染

「千本の果樹を剪定しなければ、技術は身に付かないと言われていました」と黒羽さんは苦笑します。家業を継いでから1年。ようやく全体の流れが理解できるようになって、「さあ、2年目がスタート」というときに、東日本大震災が起きたのです。

東京電力福島第一原子力発電所の事故による風評被害は、福島県の農家を直撃しました。黒羽果樹園も例外ではなく、苦しい経営を強いられました。事故前と比べて売り上げは激減。特に贈答用の売り上げは半分に落ち込むとともに、価格も大幅に下落してしまったそうです。

それでも果樹は、季節がくればつぼみをつけ、花を咲かせ、実を付けていきます。

「後ろを向いてはいけない」と黒羽さんは、原子

力発電所の勤務で培った放射線の知識を活かし、適切な時期を選びながら除染に取り組んだのです。果樹の幹の表皮を剥ぎ、幹や枝を高圧洗浄機で洗い流していきます。黒羽果樹園が手掛ける桃の木約500本、りんごの木約400本を除染するのに、人手を借りても2週間以上かかりました。また、米の生産においては放射性物質を吸着するといわれるゼオライトを土に混ぜるなど、土壌改良を施しました。こうして除染を徹底した結果、放射性物質は不検出になったそうです。

黒羽さんは、市場での検査はもとより、持ち前の知識をもとに放射性物質の自主検査も行っています。そうして検査を徹底し、安全性を強調し続けたことが功を奏し、売り上げも事故前の状態に戻ってきました。



▶ご家族・スタッフの方々が丹精込めたあま〜いりんご。現地（黒羽果樹園）でもお買い求めできます



▲メッセージが書かれたタオルも大事に使っています



▲退社した時に皆さんから贈られたつなぎを着て、福島で頑張っている黒羽さん

支えてくれた女川原子力発電所のかつての同僚たち

震災後、黒羽果樹園の売り上げが大幅に落ち込んだときに、精神的にも経営的にも支えてくれたのが、東北電力女川原子力発電所勤務時代の同僚たちでした。女川原子力発電所の先輩は、自宅が津波被害を受けるなど大変な状況であったにもかかわらず、差し入れを持って女川を訪ねた黒羽さんを温かく迎え入れ、逆に桃の注文までしてくださったそうです。その後も、かつての同僚たちから桃やりんごの注文が相次ぎました。「俺たちも頑張るからお前も頑張れ」などの激励のメッセージも届きました。「経営的にも助かりましたし、精神的にも随分と勇気づけられました。心から感謝しています」と黒羽さんは目を潤ませます。また、「テレビなどで女川原子力発電所の人たちが苦勞している姿

を見ると、家業を継ぐためとはいえ、現場から離れてしまったことを申し訳なく思うこともありま

す」とも話します。

今回、黒羽さんは「退社時に同僚たちから記念に贈られた」というつなぎを着て、取材に応じてくださいました。「皆さんからは十分なほど応援してもらいました。今回、私がこのつなぎを着て元気に働いている姿を見てもらうことで、皆さんを少しでも励ますことができれば」と黒羽さん。想いは届き、絆はさらに強く結ばれていくことでしょう。

直接販売で信頼回復に一役

黒羽果樹園ではりんごの収穫が11月の後半に最盛期を迎えています。黒羽さんが栽培するりんごの特徴は「味で勝負」。力を入れているのが「無袋」や「葉取らず」で、これらは色付きなどの見た目



黒羽果樹園

一ご注文は「FAX・お電話・ハガキ・メール」などでどうぞー
<http://momoringokome.iinaa.net/>

りんご贈答用(消費税・送料込)

玉の大きさ	5kg 箱	10kg 箱	15kg 箱
23 玉(S)	2,500 円	4,000 円	5,500 円
20 玉(M)	3,000 円	5,000 円	7,000 円
18 玉(L)	3,200 円	5,400 円	7,600 円
16 玉(LL)	3,500 円	6,000 円	8,500 円

りんご自家用(消費税・送料込)

重量	奉仕価格
5kg 箱	2200 円
10kg 箱	3400 円
15kg 箱	4600 円

※ 23 玉(S) 20 玉(M) 18 玉(L)
 16 玉(LL) を選択出来ます。

※自家用は少々キズ、変形等ありますが、味は贈答用と同じです。かなりのお買得。
 ※上記の料金は平成 25 年 10 月現在の金額です。

【ご注文時には以下の内容をお知らせください】

●注文主と送り先の〔郵便番号、住所、氏名、電話番号〕

●合計金額 [〇,〇〇〇円]

電話はなるべく携帯へ
 12:30 ~ 13:30
 夜は 20:00 ~ 22:00
 をお願いします。

※誤発送防止の為金額は必ず記載して下さい。

※料金はホームページをご確認いただくか、お電話などでお問い合わせください。

電話 024-553-2292 Fax 024-554-1951
 携帯 090-1932-0122 E-mail:mmm9688@gmail.com

●支払い方法

商品到着後、同封の郵便局振替用紙にて 14 日以内で。振替手数料は黒羽果樹園にて負担。贈答のみの場合は注文主へ振替用紙を別途送付。

黒羽果樹園(現地でのご購入)



黒羽果樹園 〒960-0102 福島県福島市鎌田字中家8



▲ご家族と取材当日に作業をしていたスタッフの方々。前列左より黒羽唯之さん、奥様の奈保子さん、後列左より馬場君枝さん、お母さんの恵子さん、菅野裕美子さん

よりも味を重視した栽培方法だそうです。それだけに
 固定客も多く、そこから評判が広がり、注文を受ける
 ことも多いとのこと。

また、黒羽さんは「黒羽果樹園」ならではのおいし
 さを武器に、インターネットや口コミを通じて直接顧
 客に商品を届ける販売方法に力を入れ、販路の拡大も
 図っています。

「直接お客さまに届ける販売方法の方が、自分で価格
 を決めることができますし、何よりも、私が培ってきた
 原子力や放射線の知識を活かして、安全性を直接説明
 することで、少しでも風評被害を払拭することができ
 のではないかと思います」と黒羽さん。生産者の顔
 が見える関係を少しずつ築いていくことが信頼回復への
 一歩であり、福島島の農業を再生、飛躍させる一つの手段
 になるともいえます。果樹栽培を始めてまだ3年目と
 はいえ、熱く語る黒羽さんの言葉には「果物王国・福島」
 を守っていく、という意気込みがにじんでいました。